



今月号では、今年創業125周年を迎えられた株式会社 アクティブ・オペレーションズの代表取締役社長 石田光一郎氏と、専務取締役 石田光樹氏にお話を伺いました。

株式会社 アクティブ・オペレーションズ

所在地	山口市小郡大正町 15 番 25 号
連絡先	TEL 083-972-0021
H P	https://renewal.hotel-active.com/
代表	石田 光一郎



ホームページ

沿革

明治33年	創業
平成12年	ホテルアクティブ!山口オープン
平成17年	ホテルアクティブ!広島オープン
平成22年	ホテルアクティブ!博多オープン
令和 7年	ホテルアクティブプレミア新山口オープン



左から石田光樹氏、石田光一郎氏

3県で宿泊特化型ビジネスホテルを展開、全国1位にも輝く

明治33年、現在の山陽本線に当たる山陽鉄道が神戸駅から下関駅まで全線開通することに合わせて小郡駅(現:新山口駅)前に「石田旅館」を開業してから、当社は今年で125周年を迎えました。現在は山口県、広島県、福岡県でホテル5棟の運営をしています。

各県で展開するホテルアクティブ!ブランドは、土地の取得から建物のデザインなど全てを自社で計画したホテルで、システムから人員構成や設備面などがすべてスムーズに連動し、軽快な運営と管理ができるホテルを実現しています。

リピートして利用していただける仕組みづくりに注力しており、重視しているのは固定客の方が安心して使えるホテルにすることです。

楽天トラベルでは、宿泊人数・泊数・売上などで毎日順位が更新されるのですが、JR博多駅から徒歩4分の場所に出店している「ホテルアクティブ!博多」は、全国で6~9位、九州では約15年の間1位をキープしています。「楽天トラベルアワード2022ホテル&旅館オブザイヤー」では全国の約4万軒の宿泊施設の中から第1位に選ばれました。

今年7月、JR新山口駅北口に開業した「ホテルアクティブプレミア新山口」も人数・泊数・売上のすべての面で山口県内では既に1位(2025年10月時点)になっています。



新山口駅から見たホテルアクティブプレミア新山口

30年を費やした新山口駅北口の再開発

7月18日にオープンしたホテルアクティブプレミア新山口は、新山口駅北口地区の法定第一種市街地再開発事業の一環で整備したものです。ホテル棟、住宅棟、賃貸住宅棟、オフィス棟の4棟で構成され、ホテルは先行して開業しました。再開発全体としては、先日10月18日には街開きの式典とイベントを行いました。



テープカットなどで竣工を祝った新山口駅北口地区第一種市街地再開発事業の工事完成に伴う竣工式

このエリアの再開発は、旧小郡町時代の平成3年ころから話が持ち上がっていました。当時は、単なる組合員の一人でしたが、周りの先輩方から「再開発事業なんて30年くらいかかるから」と言われたのを覚えています。気の遠くなるような話で、イメージすらできませんでしたが、気がつけば、いつのまにか市街地再開発組合の理事長となり、再開発事業の完成まで本当に30年程度の月日を要していました。

ここ数年、建築費の高騰などもあり、全国でかなりの数の再開発事業が着工できなかったり、頓挫していたりする中、ちゃんと完成まで漕ぎ着けたのは、マスターデベロッパーを入れず、地元の企業のみで、責任を明確にした上で協力して臨んだことが功を奏したのだと思います。

ホテルアクティブプレミア新山口、ビジネスマンから家族連れまで取り込むづくり

ホテルアクティブ!博多が楽天トラベルのホテル&旅館オブザイヤーで日本一になった頃、再開発事業の報告会で、渡辺前市長に自信たっぷりに「博多店と同じものを作ります」と申し上げた際に、渡辺前市長からは「同じではダメでしょう。もっと良くないと」とのお言葉が返ってきました。最初は難しいだろうと思ったのですが、やはり言われた通りで、博多店を開いてから何年も経って

いるわけで、気持ちを入れ替えて、さらにバージョンアップさせたモデルを計画しました。

名称に「プレミア」と付けたのは、既に新山口駅周辺にあるホテルアクティブ!山口や、ファストホテル新山口と区別するためでもあるのですが、実際様々なグレードアップを試みて差別化を図っています。

当社は権利関係の保全に注力しています。最近では、ホテルアクティブプレミアのアクティブルームのレイアウトの意匠登録が特許庁に認可されました。限られた面積の中でお客様の快適性を最大限にと考えて設計しています。パソコンを開いて作業しやすい広さの机に、卓上の3口コンセント、スマホのワイヤレス充電機能付きデスクライト、手の届く範囲にあるリモコン置き、ティッシュペーパーの設置場所など、一つ一つは小さなことなのですが、痒い所に手が届くような仕掛けをしていて、全体で考えたときに満足度の高いお部屋に仕上がっています。

客室のある各階エレベータホールには24時間ドリンクサービスの機械も設置。各部屋にあるマグカップでコーヒーやカフェラテ、ココア、お茶などをいつでも飲んでいただけるもので、こちらも特許庁で実用新案を取得しています。

館内案内や、大浴場や朝食会場の混雑状況、ランドリーの使用状況などはテレビ画面から確認可能です。テレビは、天井から床に伸びるポールに付けており、内部に同軸ケーブルやLAN、電気配線などを収納したポール式液晶TV取付装置は、特許を取得しています。



壁にモザイクタイルで富岳三十六景を描いた男性大浴場

当社のホテルスタッフの合言葉でもある「welcome…home」は、商標登録をしていますので、ホテル・レストラン・結婚式場のジャンルでは当社以外に使用できない事となっています。

また、人工温泉の大浴場を設備しており、壁際と床の間接照明のみで照度を確立させた空間は国内でも珍しいものです。工夫を凝らして水中照明も入れています。冬は湯気が立ち込めてより幻想的な雰囲気を楽しめるようになっています。



ランドリールーム

ランドリールームにもこだわりました。一般的なホテルの設計では余ったスペースにランドリーを設置することが多いのですが、そうすると暗くて怖いような行きづらい場所になってしまいます。今回は、最初から人通りの多い場所に、明るくカッコよくデザインされた空間に全自動洗濯乾燥機を通常のホテルよりかなり多めに8台用意し、アイロン台とスチームアイロン2台も用意しました。

朝食に関しては、他社のチェーンホテルさんが有料化を進めていく中、当社は全てのお客様に無料で和洋ビュッフェを提供しており、高評価をいただいています。会場は最初から朝食の提供に特化したつく

りになっているので、決められた場所に料理を置くだけで良いようになり、準備の手間を省いています。日中は宿泊客の方が自由に使えるラウンジスペースとなります。

ホテル全体の設計に当たっては、弊社の専務が大学卒業後、ホテル専門のデザイン会社に勤務していたため、イラストレーターやCGを使うことができ、細かくシミュレーションしながら、デザイナー・ゼネコンさん・サブコンさん・設計事務所と調整し建築する事ができました。

さらに、部屋数は少ないのですが、一般的なビジネスホテルにはない「4ベッドルーム」も用意しています。山口市で、4人で泊まれる部屋を検索すると、当社以外では旅館しかヒットしなかったため、非常に人気のあるお部屋となっています。

4ベッドルームはツインルームとともに水廻りに注力しており、広さのある洗面台と洗い場付きの浴槽、個室のお手洗いで、一般的なビジネスホテルというよりは外資系ホテルに近いクオリティを実現しています。家族連れやグループ旅行の需要にも応えられるようにしました。



朝食会場を兼ねるゲストラウンジ



4ベッドルーム

●湯田温泉にもホテル開業を計画

まだ基本計画の段階ですが、2027年に湯田温泉でもホテルを開業する準備をしています。数年前にプラザホテル寿のあった土地を取得しており、建物は解体して更地になっている状態です。

「ホテルアクティブ 別邸 湯田温泉」という名前で、機能はホテルで、デザインは旅館というような、モダンジャパニーズなホテルにしたいと考えています。京都の景観保全地区に存在するようなデザイナー系のホテルをイメージしています。当社の得意なジャンルで、平日はビジネスマン、週末は観光客をターゲットに展開していく見込みです。地域の観光資源を生かしていけるよう計画を進めています。